

第2学年1組 保健体育科学習指導案

指導者 野田 聖弥

1 単元「バスケットボール」

2 目標

- 基本的なボール操作を身につけ「いつ、どこへ、どのように動くか」（ボールを持たないときの動き）を理解することができる。【知識及び技能】
- 「2対1→2対2」「3対2→3対3」速攻の練習を通して、マークを外し人数的優位性をつくることの重要性に気づくとともに、そのような局面をつくるための作戦を考えることができる。【思考力、判断力、表現力等】
- チームの仲間と協力して作戦を考えたり、その作戦に基づいたゲームを展開しようとしている。【学びに向かう力、人間性等】

3 計画（9時間）

知：知識・技能 考：思考・判断・表現 態：主体的に取り組む態度 【書く活動はゴシック体】

次	学習活動・内容	『問い』	教師の支援	評価の観点
一 2時間	1 オリエンテーションを行う。 (1) 単元の見通しを持つ。 ・授業でのルール確認 ・グルーピング ・単元のためと計画 2 ためしのゲームを行う。 (1) バスケットボールの特性に触れる。 ・ボール操作 ・ボールを持たないときの動き (2) チーム（個人）の課題を明らかにする。 ・フロアバランスがとれない（密集） ・ボールが運べない ・シュートまでつながらない	○バスケットボールの特性は。 ○チーム（個人）の課題はなにか。	○単元の見通しを持たせるために、バスケットノート等を使い説明する。 ○ためしのゲームの様相を確かめるために、タブレットによる撮影を行う。 ○チームや個人の課題を発見するために撮影した映像を分析する。	
二 5時間	3 ハーフコート「2対1、3対2」のアウトナンバーゲームを行う。 ・個人技能の定着 (ドリブル、キャッチ、パス、シュート) ・人数的優位性の理解 4 オールコート速攻の練習を行う。 【書く活動Ⅱ】 (1) オールコート「2対1→2対2」速攻で効率よくボールを運び、パスやシュートにつなげるため動きを考える。 (2) オールコート「2対1→2対2」速攻の練習を行う。 ① 2対1…2線速攻 ・フリースローレーンの距離を走る ② 2対2…アーリーオフense ・カットイン・スクリーン ・ハンズオフ	○パスをつなぐためには。  ○効率よくボールを運ぶには。 ○効率よくパスやシュートにつなげるためには。	○人数的優位性を理解させるために、ハーフコート「2対1、3対2」のゲームの様相をタブレットで撮影し分析させる。  ○2線速攻の走り方や「2対2」から人数的優位な局面をつくるための動きを理解させるために、基本的な動きのパターンをバスケット部生徒による動画を使って示す。	知：ノーマークの存在が人数的優位性をつくることに気づき、パスをもらうためのポジション取りが理解できているか。
本時 5 / 5	【書く活動Ⅲ】 (3) オールコート「2対1→2対2」速攻での学んだことを「3対2→3対3」速攻につなげて作戦を考える。 (4) オールコート「3対2→3対3」速攻のミニゲームを展開する。 ① 3対2…3線速攻 ・ワイドラン ・クリスクロスラン ② 3対3…セットオフense 《トライアングルオフense》 ・カットイン ・ポスト ・スクリーン ・ハンズオフ (ボールを持っている人のDFへ、持っていない人のDFへ)	○「2対1→2対2」速攻で学んだことを「3対2→3対3」速攻につなげる（応用する）ためには。	○3線速攻の走り方や「3対3」から人数的優位な局面をつくるための動きを理解させるために、基本的な動きのパターンをバスケット部生徒による動画を使って示す。また、その動きを参考にチームで作戦を考えさせる。	考：前時で学んだことの本時につなげてまとめることができるか。 態：作戦を工夫しながら展開しようとしているか。
三 2時間	5 正規のオールコート5対5のゲームを行う。 (1) リーグ戦を行う。 ・チームの課題に応じた作戦 (2) 単元のまとめ・振り返りを行う。 ・「何を」「どのように」「使えたか」	○これまで学習したことを正規のゲームにつなげるためには。	○これまで学習してきたことを正規の「5対5」のゲームにつなげるために、基本的な動きを示すとともに、チームで戦術を考えさせる。	態：チームで協力して作戦を考えたり、ゲームを展開したりしようとしているか。

4 本時 令和5年1月10日(金) 第5校時 体育館

5 【後期：充実発展期】

- ①保健体育科における「見方＝視点」  
「チームで協力してゲームを展開し、バスケットボールを楽しむ」
- ②思考内容「考え方＝方法」→「多面的・多角的に見る」  
『問い』→『オールコート「2対1→2対2」速攻で学んだことを「3対2→3対3」速攻につなげる(応用する)には、どのような動きを意識してゲームを展開をすればよいだろうか。』

6 本時の主眼

- 既習のオールコート「2対1→2対2」速攻の練習で学んだことを「3対2→3対3」速攻の動きにつなげてまとめたり、チームで練った作戦をためしたりすることができる。

7 本時の指導観

本単元では、素早いパスワークによりボールを効率的にフロントコートに運び、シュートまでつなぐことができるチーム(生徒)の育成をねらいとしている。  
そのために、前時までにハーフコート2対1、3対2のアウトナンバーのゲームやオールコート「2対1→2対2」速攻の学習を行ってきた。そこで生徒は、ノーマークをつくり人数的優位性を生み出すことで、パスがつながりやすくなったり、シュートに結びつけやすくなったりすることに気づいている。しかし、速攻の効果的な走り方が分かっていなかったり、ノーマークをつくるための動きが十分に理解できていなかったりしている。  
そこで本時では、「2対1→2対2」速攻の練習で学んだことを「3対2→3対3」速攻につなげ、有効な攻撃が展開できるようになることをねらいとする。

8 本時の過程

【書く活動はゴシック体】

生徒の活動・内容	教師の支援	評価の観点	形態	配時
<p>1 前時の学習を振り返り、めあてを確認する。 【書く活動Ⅲ】 (1)【書く活動Ⅲ】のシートやバスケットノートにまとめた「3対2→3対3」速攻の作戦を確認する。 ①3対2…3線速攻 ・ワイドラン ・クリスクロスラン ②3対3…セットオフense 《トライアングルオフense(かさ型・たて型)》 ・カットイン ・ポスト ・スクリーン ・ハンズオフ (ボールを持っている人の DF へ、持っていない人の DF へ) めあて チームで練った作戦をもとに「3対2→3対3」速攻を成功させよう。</p>	<p>○「2対1→2対2」速攻の学習を基に考えた作戦を確認するために、前時にまとめた「書く活動Ⅲ」の内容を振り返らせる。 ○速攻とセットオフenseの両方に対応するために、3対2速攻と3対3攻防の場面に分けて作戦を考えさせる。</p>	<p>考：「2対1→2対2」速攻で学んだことを「3対2→3対3」速攻の動きにつなげてまとめることができるか。</p>	一斉  チーム	5
<p>2 作戦に応じたチーム練習を行う。 ・3線速攻の練習 ・セットオフenseの練習</p> <p>3 作戦に基づきオールコート「3対2→3対3」速攻のミニゲームを展開する。 (1)タブレットでゲームの様相を撮影する。 【書く活動Ⅲ】 (2)撮影した映像をもとに作戦を練り直す。 ・走るコース取り ・役割の確認と見直し ・ノーマークをつくる動き (3)練り直した作戦をためす。 ・課題の修正 ・成果と課題</p>	<p>○作戦を成功させるために、チームの課題に応じた練習を行わせる。</p> <p>○チーム(個人)の課題解決状況を把握するために、ゲームの様相をタブレットを使い、撮影させる。 ○チーム(個人)の課題を解決するために、作戦を練り直させる。</p> <p>○作戦通りの展開ができるように、互いの動きを確認させる。</p>	<p>態：チームで練った作戦をゲームの中でためそうとしているか。</p>	チーム  チーム	5  1 5  5  1 5
<p>4 本時の学習の振り返りを行う。 (1)本時のゲームを振り返りまとめる。 (2)次時の学習内容を確認する。</p>	<p>○次時の学習(正規のゲーム5対5)につなぐことができるように、成果と課題を整理させる。</p>		一斉	5